

企業を知る I

担当教員 村上 了太

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は、広く企業を理解するために設けられた科目であり、初学者に向けて経営学を概説することが目的である。経営学を理解するためには、まず企業とは何かを平易に説明する。同時に「働く意味」についても考えていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	成績の評価基準と出席確認方法などの説明
2	キャリアとしての企業
3	生活に密着している企業
4	携帯電話で企業を考える
5	自動車で企業を考える
6	航空で企業を考える
7	企業の責任（事故、不祥事、欠陥商品）
8	中間試験
9	職場の組織を考える
10	人間をどのように管理するか①
11	人間をどのように管理するか②
12	経営学の役割
13	「もうけること」と「もうけ方」の意味
14	まとめと質疑応答
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

- (1) 私語、講義中の携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である
- (2) 講義の進捗状況によっては、計画を前後させる場合がある

【評価方法】

出席（50％）と試験（50％）

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

企業を知るⅡ

担当教員 村上 了太

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義の目的は、「企業を知るⅠ」を基礎に、実際の企業行動を概観していくことにある。とりわけわれわれが日頃接している「企業」の実例を挙げながら、経営学を考えていくことに時間を費やしていきたい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	講義の説明
2	業界研究①
3	業界研究②
4	業界研究③
5	業界研究④
6	業界研究⑤
7	業界研究⑥
8	中間試験
9	商品に関わる問題事例①
10	商品に関わる問題事例②
11	商品に関わる問題事例③
12	商品に関わる問題事例④
13	商品に関わる問題事例⑤
14	まとめと質疑応答
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

- ①「企業を知るⅠ」からの履修を勧める
- ②企業活動から生まれる諸問題は常に変化している。なるべくアップトゥーデイトな内容を提供する
- ③私語、講義中に携帯電話使用、理由なき途中退席は厳禁である

【評価方法】

出席（50％）および試験（50％）

【テキスト】

日経CSRプロジェクト編『CSR 働く意味を問う』日本経済新聞出版社、2007年

【参考文献】

各回の講義の際、必要に応じて紹介する

教育学 I

担当教員 野見 収

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

「教育学」という学問領域がよって立つ地平を、社会、発達、思想、生命、人権、平和といった観点から確認し、今後、学生が教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角を提供する。本講義を通じて、教育という営みに対する学生の興味関心が、より深いものになることを期待する。

【授業の展開計画】

- 1 インTRODakション
- 2 学力と教育—「学力低下」問題
- 3 学歴社会と教育—「学歴の再生産」問題
- 4 発達と教育（1）—野生児の記録①
- 5 発達と教育（2）—野生児の記録②
- 6 特色ある教育の思想と実践（1）—シュタイナー教育①
- 7 特色ある教育の思想と実践（2）—シュタイナー教育②
- 8 特色ある教育の思想と実践（3）—生活綴り方教育①
- 9 特色ある教育の思想と実践（4）—生活綴り方教育②
- 10 生命と教育（1）—デス・エデュケーション
- 11 生命と教育（2）—優生学と教育
- 12 人権と教育（1）—人種差別と教育
- 13 人権と教育（2）—「部落」問題と教育
- 14 平和と教育（1）—戦前・戦中の国家主義教育
- 15 平和と教育（2）—戦後教育の理念と課題
- 16 定期試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、三分の二以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジユメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

教育学Ⅱ

担当教員 野見 収

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

教育という営みを支える基礎原理を、歴史・思想・制度といった多角的な視点から読み解き、その限界と可能性を確認しながら、今後の教育のあるべき姿を学生とともに模索する。教育学Ⅰと同じく、学生が今後、教育について考えていく際に必要となるであろう基礎的視角の提供を目的とする。

【授業の展開計画】

- 1 イントロダクション
- 2 子ども理解について (1) —臨床心理学の知見①
- 3 子ども理解について (2) —臨床心理学の知見②
- 4 教師と教育 (1) —今日の教師をとりまく社会的状況①
- 5 教師と教育 (2) —今日の教師をとりまく社会的状況②
- 6 教師と教育 (3) —「教師—生徒」関係の課題
- 7 性と教育 (1) —性教育の現状
- 8 性と教育 (2) —性教育の歴史
- 9 性と教育 (3) —性と人間発達の理論
- 10 教育の現代的課題 (1) —適応障害
- 11 教育の現代的課題 (2) —いじめ・不登校・学級崩壊
- 12 教育の現代的課題 (3) —モンスター・ペアレント
- 13 沖縄と教育 (1) —戦前戦中の沖縄における学校教育
- 14 沖縄と教育 (2) —戦後の沖縄における学校教育
- 15 いのちの教育について
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

遅刻、私語、無断欠席は認めない。毎回、授業終盤に小レポートを課す。

【評価方法】

受講態度、小レポートの提出状況およびその内容、期末試験の結果によって総合的に評価する。なお、三分の二以上の出席がなければ、期末試験の受験は認めない。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。レジュメを配布する。

【参考文献】

授業中に紹介する。

経済学 I

担当教員 仲地 健

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義では、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション
2	需要曲線と供給曲線
3	市場均衡と均衡の安定性
4	需要曲線・供給曲線のシフト
5	価格弾力性
6	余剰分析①
7	余剰分析②
8	最適消費の決定と需要曲線の導出①
9	最適消費の決定と需要曲線の導出②
10	生産量の決定と供給曲線の導出①
11	生産量の決定と供給曲線の導出②
12	パレート効率性
13	市場の失敗と独占
14	まとめ
15	期末試験
16	

【履修上の注意事項】

私語は厳禁

【評価方法】

期末試験の結果で評価する。

【テキスト】

開講時に指定する。

【参考文献】

経済学Ⅱ

担当教員 宮城 和宏

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

本講義は経済学をはじめて学ぶ学生が、経済学の入門的知識を習得することにより日常の経済現象を少しでも理解できるようになることを目的としている。経済学はミクロ経済学とマクロ経済学に大別できるが、経済学Ⅱでは主にマクロ経済学を学習することになる。

【授業の展開計画】

- 第1回 インTRODダクション：講義内容の紹介
- 第2回 国民所得の諸概念
- 第3回 //
- 第4回 三面等価の原則
- 第5回 ISバランス論
- 第6回 物価の計算
- 第7回 財市場の分析
- 第8回 国民所得の決定
- 第9回 流動性選好理論
- 第10回 投資の理論
- 第11回 金融政策
- 第12回 古典派とケインズ派の利子論・貨幣論
- 第13回 財市場の分析（IS曲線）
- 第14回 貨幣市場の分析（LM曲線）
- 第15回 財市場と貨幣市場の同時均衡 16回目にテストを行います

【履修上の注意事項】

経済学Ⅰを履修済みであることが望ましいが、講義自体はそれを前提としない。

【評価方法】

出席態度、授業への参加度（質問等）、期末試験で総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（レジュメ等を配布する）

【参考文献】

マクロ経済学の入門書は多数出版されているので各自に合ったものを参照すること。

社会学 I

担当教員 末吉 重人

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義は共通科目であるため、親しみやすさを目指し前期は興味を持ちやすいアップデートな「社会問題」を扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	社会福祉（ノーマライゼーション等）
第2回	マスコミ論入門	第10回	〃（ビデオ使用、介護保険等）
第3回	〃（ビデオ使用）	第11回	教育問題（学校の教育力）
第4回	家族問題入門（沖縄の離婚）	第12回	〃（地域・社会の教育力、ビデオ使用）
第5回	〃（虐待、ビデオ使用）	第13回	宗教の問題（世界の宗教）
第6回	「男女共同参画」問題	第14回	〃（沖縄の世界観、ビデオ使用）
第7回	「ジェンダー」の問題	第15回	期末テスト
第8回	安全保障の問題		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ & A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：700円）

【参考文献】

伊江朝章、波平勇夫、鵜飼照喜編『現代教養としての社会学』、福村出版、1989年

社会学Ⅱ

担当教員 末吉 重人

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

後期は理論的な社会学を紹介する。社会学成立の背景となったフランス革命をおさらいし、それから代表的な社会学者・理論を取り上げる。特に最近毎年三万人を超えている自殺者問題をデュルケムの際に扱う。

【授業の展開計画】

第1回	シラバスの説明	第9回	ウェーバーの支配社会学
第2回	社会学の始まりーコント	第10回	機能主義社会学とパーソンズ
第3回	デュルケムの社会学	第11回	パーソンズのAGIL
第4回	デュルケムの自殺論	第12回	パーソンズ以降の社会学
第5回	自殺の「ビデオ教材」視聴	第13回	マートンの中範囲理論
第6回	マルクス主義社会学	第14回	期末テスト
第7回	マルクス主義と社会主義諸国	第15回	ポストモダニズム
第8回	ウェーバーの近代化理論		

【履修上の注意事項】

授業の半分は質問用紙を使ったQ&A形式で進行したい。私語は厳禁。退場もある。これは厳格に行う。

【評価方法】

前後期とも期末テスト（80点）と出席点（20点）で評価する。

【テキスト】

『書き込み式社会学入門』（末吉重人、球陽出版、2007年：700円）

【参考文献】

『社会学講義』富永賢一、中公新書、1995年初版、900円

社会福祉入門 I

担当教員 竹藤 登

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

1. 現代社会における社会福祉の意義、理念について理解させる。
2. 社会福祉の歴史・理念の変遷について理解させる。
3. 現代社会福祉の重要課題を理解させる。
4. 福祉新法について理解させる。
5. 人権と権利、権利擁護システムについて理解させる。
6. ソーシャルワークの実践を理解させる。

【授業の展開計画】

講義方式

1. 社会福祉とは 社会福祉の視点
2. 福祉の理念の変遷 歴史的背景 ノーマライゼーション
3. 福祉基礎構造改革 措置から契約へ
4. ソーシャルワーカーとは ソーシャルワーカーの役割
5. 介護保険法の概要
6. 障害とは 障害者の心理
7. 自立とは 自立支援とは
8. 障害者自立支援法
9. 人権と権利 権利擁護システム
10. 苦情解決 オンブズマンシステム
11. 成年後見制度の概要
12. 成年後見活動の実際
13. ソーシャルワーク実践事例①
14. ソーシャルワーク実践事例②
15. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト実施

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

社会福祉入門Ⅱ

担当教員 竹藤 登

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

1. 社会福祉援助技術の実際について理解させる。
2. 倫理性を身につける。
3. 個別援助技術を学ぶ。
4. 集団援助技術を学ぶ。
5. ケアマネジメント手法を学ぶ。
6. 社会福祉運営管理方法を学ぶ。
7. スーパービジョンを体験する。

【授業の展開計画】

講義形式及び演習形式

1. 自己覚知
2. コミュニケーション技術演習
3. 面接技法演習
4. 利用者理解 利用者の困難性を環境因子から考える
5. 価値と倫理 倫理綱領を考える
6. 社会福祉援助技術の基本原理と種類
7. 個別援助技術（ケースワーク）の実際
8. 集団援助技術（グループワーク）の実際
9. 地域援助技術（コミュニティーワーク）の実際
10. ケアマネジメント手法の実際
11. ケアマネジメント演習
12. 社会福祉運営管理の実際（人事管理）
13. リスクマネジメント リスク管理と苦情解決
14. スーパービジョンの実際
15. まとめとテスト

【履修上の注意事項】

【評価方法】

テスト実施

【テキスト】

その都度資料配布

【参考文献】

政治学 I

担当教員 芝田 秀幹

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動について全般的に理解できるように講義する。なお、今年度から、「政治学 I」は、単に政治学の学術的内容を紹介するのに留まらず、それを沖縄の現状と関連付けながら、それも従来の沖縄政治論にはない新視点から講義を進める予定である。ただ、扱う内容が広範に亘るため、「政治学 I」では、とりあえず以下のテーマを扱い、それ以外に関しては「政治学 II」に委ねることとする。是非とも「政治学 II」も履修して欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	政治学を学ぶ意味 - 「居酒屋政治談義」を超えて -
2	政治 - 「身近な」政治と「縁遠い」政治 -
3	国家 (1) - 近代国民国家とその正統化原理 -
4	国家 (2) - ナショナリズムの意味とNation/Ethnicityとしての民族 -
5	国家 (3) - 日本民族と沖縄人：「うちなんちゅー」は何人？ -
6	政策 (1) - 日本の政治過程と政策形成過程 (1) -
7	政策 (2) - 日本の政治過程と政策形成過程 (2) -
8	官僚 (1) - キャリア官僚の実態 -
9	官僚 (2) - 談合と「天下り」の密接な関係 -
10	官僚 (3) - 沖縄県発注の建設工事に係る入札談合事件 -
11	世論とメディア (1) - 世論へのマスメディアの影響と日本の新聞 -
12	世論とメディア (2) - 沖縄のメディアの功罪 -
13	デモクラシー (1) - 自由・民主主義と全体主義・ナショナリズム -
14	デモクラシー (2) - 討議・闘技デモクラシーと沖縄 -
15	講義のまとめ - 「1:46」ではなく「1/47」の視座で -
16	

【履修上の注意事項】

「政治学 II」も履修することが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

政治学Ⅱ

担当教員 芝田 秀幹

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

政治学をはじめて本格的に学ぶ者のために、政治学上の基礎概念を解説するとともに、政治の原理、政治構造、政治の作動について全般的に理解できるように講義する。なお、今年度から、「政治学Ⅱ」は、単に政治学の学術的内容を紹介するのに留まらず、それを沖縄の現状と関連付けながら、それも従来の沖縄政治論にはない新視点から講義を進める予定である。ただ、扱う内容が広範に亘るため、「政治学Ⅱ」では、前期の「政治学Ⅰ」では扱えなかったテーマを扱う。「政治学Ⅱ」受講者は予め「政治学Ⅰ」を受講しておいて欲しい。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	政治を見る視点 - 政治学と政治 -
2	日本国と東アジア (1) - 尖閣諸島・竹島を巡って -
3	日本国と東アジア (2) - 日本国・沖縄県・台湾・中華人民共和国 -
4	日本国と東アジア (3) - 「東アジア共同体」批判 -
5	安全保障 (1) - 自衛隊と日米安保条約 -
6	安全保障 (2) - 在日米軍基地 (1) : 米軍基地「75%」集中? -
7	安全保障 (3) - 在日米軍基地 (2) : 他府県の米軍基地 -
8	戦争と平和 (1) - 国際関係における安全保障 (1) -
9	戦争と平和 (2) - 国際関係における安全保障 (2) -
10	戦争と平和 (3) - 絶対平和主義批判 -
11	政治の心理 (1) - 政治文化・政治的態度・政治的価値観 -
12	政治の心理 (2) - 沖縄県の政治文化 -
13	中央地方関係 (1) - 地方自治と地方分権 -
14	中央地方関係 (2) - 「沖縄自治州」批判 -
15	講義のまとめ - 「1:46」ではなく「1/47」の視座で -
16	

【履修上の注意事項】

「政治学Ⅰ」を履修していることが望ましい。

【評価方法】

定期試験の結果と出席状況で判断。

【テキスト】

使用しない。プリントなどを適宜配布。

【参考文献】

開講時に指定。

地理学 I

担当教員 濱里 正史

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地理学 I

担当教員 崎浜 靖

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地理学には、2つの二元論（分類）がある。まず特定の地域を対象に、自然環境から人文環境について総合的に記述する地誌学と、系統科学との関係から地域をみる系統地理学による分類である。また、自然環境を主に地域的特性を考証する自然地理学と、人文・社会現象を主に地域的特性を考証する人文地理学による分類もある。総じて言えることは、「人と土地」との関わりを明らかにすることが地理学の大きな目標である。本講義では、「人と土地」の関係みるために、世界・日本の各地域に展開する地理空間に接近したい。

【授業の展開計画】

- 1 地理学の成立と本質
- 2 地図の利用①－古地図の読解－
- 3 地図の利用②－地形図の基礎－
- 4 地図の利用③－主題図の作成－
- 5 地域と景観①－韓国済州島の景観－
- 6 地域と景観②－サイパン島・テニアン島・ロタ島の景観－
- 7 地域と景観③－台湾の景観－
- 8 環境と生態①－熱帯地域の環境－
- 9 環境と生態②－湿潤地域の環境－
- 10 環境と生態③－乾燥地域の環境－
- 11 環境と生態④－寒帯地域の環境－
- 12 開発と環境変化①－近代先島諸島におけるマラリア－
- 13 開発と環境変化②－沖縄市泡瀬干潟の埋め立て－
- 14 開発と環境変化③－都市の立地とヒートアイランド現象－
- 15 開発と環境変化④－都市の社会空間－
- 16 期末試験

【履修上の注意事項】

地図帳を持参して講義に参加すること。出席と課題の提出を重視するので、注意すること。

【評価方法】

期末試験と課題点、出席状況により総合的に判断する。

【テキスト】

毎回、プリントを配布する。

【参考文献】

講義の中で適宜紹介する。

地理学Ⅱ

担当教員 濱里 正史

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

地理学Ⅱ

担当教員 上江洲 薫

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地理学は地域を研究対象とし、自然地理学や人文地理学などの分野がある。本講義では人文地理学の一分野である観光地理学を中心に、観光地の現状や問題・課題を理解し、受講生が観光による地域振興の方法や意義を考察する能力を身に付けることを目的とする。講義では関連する資料や映像資料の活用しながら解説する。

【授業の展開計画】

1. 観光地理学の概観…観光の概念と観光地域
2. 観光産業と地域との関係…宿泊業、遊園地・テーマパーク
3. 観光資源…観光地診断、観光地イメージ
4. 海岸観光地①…海水浴場、海浜条例、海岸・海域利用(ハワイ)
5. 海岸観光地②…ダイビング問題、海岸リゾート(ハワイ)
6. 温泉観光地①…ドイツ、湯治場、温泉地の現状
7. 温泉観光地②…日本の温泉地(玉川温泉・岳温泉・黒川温泉)
8. 農山村観光地…グリーンツーリズム、農家民宿
9. 都市観光地…成立条件、計画・管理システムの組織化
10. エコツーリズム…エコツーリズム開発と地域コミュニティー
11. 経済的インパクト…所得、雇用、投資など
12. 社会的インパクト…文化の観光化、バロン・ダンス
13. 環境的インパクト…国立公園、上高地、ゴルフ場開発
14. 観光地の環境保全…町並み保存(妻籠宿、白川、萩、竹富島)
15. 観光政策と観光地計画…恩納村環境保全条例、由布院、ラングドック・リゾート
16. 期末試験

【履修上の注意事項】

本講義は観光地の紹介や楽しみ方を説明しないため、そのことを理解した上で受講して下さい。観光行政や地域振興などに興味がある学生を広く歓迎する。途中退席や私語を繰り返す受講生は大きな減点とする。初回から出席を取る。

【評価方法】

成績評価は出席(30点)や試験(40点)、講義内容に関する感想や作業物の提出および講義への参加姿勢(30点)で判断する。任意のレポートを提出した場合は加点する。

【テキスト】

特に指定はない。毎回レジュメを配布する(ファイルに綴じて毎回持参して下さい)。

【参考文献】

山村順次編著(2010)『観光地理学』、同文館出版。

日本国憲法

担当教員 高良 鉄美

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

この講義では日本国憲法の基本構造について理解してもらうことを主眼においている。憲法の歴史、基本原理はもちろんのこと、日本国憲法の特徴である平和主義と基本的人権、国民主権との関係についてもどのように絡み合っているのか学習し、憲法の全体構造を捉えることを目的とする。憲法と社会現実、日本国憲法の理念と憲法改正問題、沖縄における憲法問題など身近な問題点についてともに考えて行きたい。

【授業の展開計画】

回数	講義内容説明
第1回	INTRODUCTION 講義内容説明
第2回	憲法の基本 憲法とは? 明治憲法
第3回	日本国憲法の歴史
第4回	国民主権 国民主権原理の内容
第5回	平和主義 自衛隊 安保体制
第6回	基本的人権 人権の歴史 分類 幸福追求権
第7回	法の下での平等 平等の内容
第8回	精神的自由権 内面性精神的自由権 思想 宗教
第9回	精神的自由権 外面性精神的自由権 表現の自由
第10回	経済的自由権 財産権 人身の自由 死刑廃止論
第11回	参政権 社会権 選挙権 情報公開 生存権
第12回	国会 内閣 議院内閣制 国政調査権
第13回	裁判所 司法権の独立 憲法の変遷
第14回	財政 地方自治
第15回	期末試験
第16回	まとめ

【履修上の注意事項】

【評価方法】

期末テストの成績、レポート及び出席点で評価する。
レポートは課題を出すのでその中から選択

【テキスト】

教科書 「わたしの憲法手帳」 沖縄県憲法普及協 800円

【参考文献】

日本国憲法

担当教員 高良 沙哉

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

この講義は、憲法の成立経緯や根本原理・基本原理を学んだ上で、個々の人権規定の内容、具体的事例に触れ、憲法の全体像を概観することを目的としている。

また、平和主義や人権と在沖米軍基地問題、表現の自由と教科書検定の問題、憲法改正に関する問題など、私たちの身の回りにある憲法問題や現代的な憲法問題を積極的に取り上げ、学生自身が憲法を自分に身近なこととして捉えて学習し、考える中でより理解を深めていくことをねらいとする。

【授業の展開計画】

憲法の成立経緯、基本原理、個々の人権規定についての基礎を学ぶ。講義は、初学者にもわかりやすいように、図を多く用いておこなう。講義は、レジュメに沿って進める。日本国憲法の条文を引きながら学習し、進度にあわせて重要判例や新聞も読む。

週	授 業 の 内 容
1	イントロダクション・いま憲法を学ぶということ
2	憲法とは
3	明治憲法から日本国憲法へ
4	日本国憲法の根本規範・基本原理（国民主権、平和主義、基本的人権尊重）
5	日本国憲法の根本規範・基本原理
6	基本的人権の原理
7	包括的基本権
8	法の下での平等
9	精神的自由（1）
10	精神的自由（2）
11	経済的自由（1）
12	経済的自由（2）
13	人身の自由
14	社会権
15	統治機構の基礎。 16回目に期末試験を実施します。
16	

【履修上の注意事項】

毎時間出席をとります。初回講義において、期末試験や講義の進め方、レポートについて詳しく説明します。板書をすることが多いので、ノートや筆記用具を忘れずに、講義に参加してください。

【評価方法】

後期末に行う試験で評価します。任意提出のミニレポートを課し、提出した学生には加点します。

【テキスト】

テキストは指定しません。

【参考文献】

芦部信喜『憲法第四版』（2007年 岩波書店）
その他、参考文献は随時紹介します。

日本国憲法

担当教員 儀部 和歌子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

今、憲法に関して様々な議論がなされています。しかし、実際は、憲法の基本を理解しないままの議論も多くなされていると感じています。そこでみなさんには、「憲法とは何か」、また「憲法に関する基本的なことは何か」を正確に理解していただいたうえで、今なされている議論についてご自身で判断していただけるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。

【授業の展開計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 憲法とは何か
- 第3回 日本国憲法が一番大切にしている考え方+日本国憲法の三つの基本原理
- 第4回 平和主義について
- 第5回 日本国憲法と明治憲法+コスタリカ憲法（おまけ）
- 第6回 人権は誰に対して保障されているのか
- 第7回 人権を制約することはできるのか
- 第8回 憲法に書かれていない人権—新しい人権について
- 第9回 「法の下での平等とは」
- 第10回 思想・良心の自由
- 第11回 表現の自由
- 第12回 人間らしく生きる権利
- 第13回 被害者・被告人の人権—裁判員制度を見据えて
- 第14回 憲法改定問題について
- 第15回 期末試験

【履修上の注意事項】

毎時間講義終了後に講義の感想を書いていただきます（出欠点検）。3分の1以上欠席した場合、単位を認定しません。

【評価方法】

レポート、学期末試験に、出席状況を加味して行います。

【テキスト】

教科書は使用しません（講義の際にプリントを配布する予定）。

【参考文献】

「勇気の源はなんですか？」（伊藤千尋・憲法9条・メッセージプロジェクト） / 「高校生からわかる日本国憲法の論点」（伊藤真著・株式会社トランスビュー） / 「憲法入門」（伊藤正己著・有斐閣双書）

文化人類学 I

担当教員 稲福 みき子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期前半

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

さまざまな民俗の文化や社会を知ることによって、自らの文化や社会、さらに人間についての理解を深める。異文化理解の枠組み、制度化された人間関係、儀礼のありかたを扱う。

【授業の展開計画】

- 1) 文化人類学への誘い
 - ① 自文化と異文化
 - ② 課題と概念
- 2) 異文化理解と現地調査
 - ① 文化人類学の流れ
 - ② B, マリノフスキーとフィールドワーク
- 3) 人と人の結びつき1: 親と子・家族とは
 - ① 民俗生殖観
 - ② 家族のかたち
- 4) 人と人の結びつき2: 親族
 - ① 親族の絆
 - ② 親族の組織化
- 5) 儀礼の諸相
 - ① 聖と俗
 - ② 一年の構成
- 6) 通過儀礼と人間の一生
- 7) 宗教の専門家たち

【履修上の注意事項】

積極的な授業参加を望む。

【評価方法】

講義の内容に応じたレポート、テストを課す。

【テキスト】

講義は、毎回配布するレジュメと資料に沿って行う。

【参考文献】

参考文献は随時紹介する。

文化人類学 I

担当教員 栗国 恭子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

- 1 週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
- 2 週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
- 3 週目 文化人類学説史① 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
- 4 週目 文化人類学説史② 認知人類学、象徴人類学、人類学の現代のテーマ
- 5 週目 生活の技術・経済の技術① パプアニューギニアトロブリアント諸島のクラ交換
- 6 週目 生活の技術・経済の技術② 海に生きる人々 スールー海の漂海民 国境・国民化
- 7 週目 照葉樹林文化 東アジアの自然と人々の暮らし
- 8 週目 世界の食文化 現代の食文化と日本・アジア 現代問題・グローバル
- 9 週目 西南シルクロード 中国西南部の民族
- 10週目 中国の少数民族文化① 雲南省ナシ族・麗江 社会の構造 婚姻システム
- 11週目 中国の少数民族文化② 雲南省チベット族 観光化・チベット仏教
- 12週目 中国の少数民族文化③ ウイグル自治区中国・カシュガル 文化の記録・金属の技術
- 13週目 象徴人類学 右手の優越 認識
- 14週目 空間認識の文化 東アジアの空間認識・風水・首里城・民俗方位
- 15週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

その他の 講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

文化人類学 I

担当教員 山本 ブードロウ 成

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期後半

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

文化人類学の視点をとおして世界の民族社会・文化を知り、さらに自らの文化について考える。沖縄と関係の深い多文化社会ハワイを中心に取り上げる。本講義では写真・映像資料等を活用する。

【授業の展開計画】

- 1週目 ハワイ研究への招待I（ハワイ概要、講義内容説明）、アンケート
- 2週目 ハワイ研究への招待II
- 3週目 ハワイのウチナンチュ（沖縄県系移民子弟）
- 4週目 ハワイのウチナンチュコミュニティ
- 5週目 ハワイの多文化コミュニティ
- 6週目 ハワイの自然と伝統文化
- 7週目 ハワイの観光開発と伝統文化
- 8週目 ハワイと沖縄（総括）、レポート提出

【履修上の注意事項】

【評価方法】

8週目講義終了時に提出するレポートと出席状況および授業中のアンケートの総合評価とする。講義で取り上げたキーワード（多文化社会、自然と伝統文化、ハワイのウチナンチュ（移民）、観光と伝統文化）の一つをテーマに選び「沖縄とハワイ」について比較・考察を行ったレポート（A4サイズ4～5ページ）を作成する。

【テキスト】

講義毎にレジュメ、資料を適宜配布する。

【参考文献】

講義時に随時紹介する。

文化人類学 I

担当教員 石垣 直

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

「文化人類学」とは、「文化」という用語を基礎として世界各地の諸社会および総体としての人間社会について考えていこうという学問である。本講義では、「人間と文化」という視点から人類社会に関わるさまざまなトピックを取り上げて、人類とは何か、人間社会とは何かについて考えていく。

【授業の展開計画】

- ①ガイダンス
- ②「文化」とは何か？
- ③文化人類学の方法論
- ④家族・親族・結婚
- ⑤社会組織
- ⑥贈答・交換
- ⑦儀礼・象徴・タブー
- ⑧宗教・死・世界観
- ⑨法と秩序
- ⑩政治制度
- ⑪環境と経済
- ⑫身体とジェンダー
- ⑬個人とアイデンティティ
- ⑭民族と国家
- ⑮まとめ
- ⑯テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（50％）、筆記試験（50％）

毎回の授業時に、出席および授業参加姿勢を確認するため、レスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

石川栄吉ほか（編）1995 [1987] 『文化人類学事典』弘文堂。

文化人類学Ⅱ

担当教員 栗国 恭子

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

文化とはなにか。成立して160年ほどの若い学問である文化人類学の視点をとおして「人間の在り方」を考えてみる。世界の様々な民族の社会・文化を知ることによって自らの文化について考える。

【授業の展開計画】

- *Ⅰ・Ⅱは単独登録可能のため1～4週目が同内容
- 1週目 文化とは何かー文化人類学の概念・課題と方法ー
 - 2週目 文化人類学とはどのような学問か 人種と民族、方法論
 - 3週目 文化人類学学説史 民族概念・進化主義・伝播主義・機能構造主義
 - 4週目 宗教人類学① 超自然・呪術と宗教・アニミズム 「宗教概念」の確認
 - 5週目 宗教人類学② 社会変動と宗教 宗教・政治・民族復興
 - 6週目 宗教人類学③ シャーマニズム
 - 7週目 宗教人類学④ 宗教儀礼「霊魂観」
 - 8週目 文化の語り 象徴と王権 ルーズ・ベネディクトの仕事
 - 9週目 文化の展示
 - 10週目 レビィ・ストロースの仕事 「サンタクロースの秘密」
 - 11週目 観光人類学① 文化の語り
 - 12週目 観光人類学② 伝統文化と観光
 - 13週目 開発と文化① 異文化接触 文化の変容
 - 14週目 開発と文化② グローバル化と文化変容
 - 15週目 テスト レポート

【履修上の注意事項】

特になし

【評価方法】

出席・毎時間の感想の確認と学期末のレポートで評価する。

【テキスト】

指定テキスト特になし

講義用のレジュメ・資料は配布する。ビデオなどを使用し、重要な参考文献などは講義の中で紹介する。

【参考文献】

『文化人類学』祖父江孝男編(中公新書)『文化人類学』波平恵美子編(医学書院)『よくわかる文化人類学』綾部・桑山編(ミネルヴァ書房)『文化人類学キーワード』山下晋司編(有斐閣)『文化人類学最新術語100』綾部恒雄

文化人類学Ⅱ

担当教員 山本 ブードロウ 成

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期後半

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義の目的は、文化人類学の諸理論について基礎的な理解を得ることにある。本講義に先立つ「文化人類学Ⅰ」では、生活に関連した諸トピックを取り上げることによって人類社会の普遍性と多様性を論じた。それを踏まえて本講義では、これまでに提出されてきた人類学理論をレビューすることを通じて、人類学（理論）からみた人類社会のありようについて理解を深めることを目指す。

【授業の展開計画】

- ① ガイダンス
- ② 「文化人類学」とは何か？
- ③ 「人類」について
- ④ 社会進化論と伝播論
- ⑤ 文化とパーソナリティ論
- ⑥ 機能主義
- ⑦ 親族研究
- ⑧ 構造主義
- ⑨ 象徴・認識論
- ⑩ 解釈人類学
- ⑪ 実践論
- ⑫ 植民地主義と人類学
- ⑬ 近代化と土着主義運動
- ⑭ 現代社会と人類学
- ⑮ まとめ
- ⑯ テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（50％）、筆記試験（50％）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂。残りは授業中に適宜紹介する。

文化人類学Ⅱ

担当教員 石垣 直

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期前半

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

本講義目的は、これまでに提出されてきたさまざまな人類学理論を視野に入れつつ、世界各地の風俗・習慣などに関する理解をさらに深めることにある。

【授業の展開計画】

- 1) ガイダンス
- 2) 「文化人類学」とは何か？
- 3) 学説史（1）——社会進化論・伝播論・文化とパーソナリティ論
- 4) 学説史（2）——機能主義と親族研究
- 5) 学説史（3）——構造主義・象徴論
- 6) 学説史（4）——解釈人類学・実践論
- 7) テスト

【履修上の注意事項】

毎回授業の際に、出席確認をかねて、受講生にレスポンス・ペーパーを配布し、授業に対する感想・質問・意見などを受け付ける。なお、他の受講生の学習を妨害するような言動があった場合には、退席を要求することもあるので注意されたい。

【評価方法】

出席（50％）、筆記試験（50％）

毎回の授業時に出席および授業参加姿勢を確認するためのレスポンス・ペーパーの提出をもとめる。また、学期中間あるいは学期末には講義中に紹介した諸トピックにかんする筆記試験を行い、出席・授業参加姿勢とともに総合的に評価する。

【テキスト】

特になし（毎回の授業でレジュメあるいは資料を配布する）。

【参考文献】

綾部恒雄（編）2006『文化人類学20の理論』弘文堂。石川栄吉ほか（編）1995〔1987〕『文化人類学事典』弘文堂。残りは授業中に適宜紹介する。

法学

担当教員 長嶺 弘善

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 前期・後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における物品購入・借家・借金・保証などの契約関係、交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子の問題における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。講義はできるだけ具体的事例に即しておこない、法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのかを理解することを目標とする。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。

【授業の展開計画】

毎回の授業はそれぞれ異なる分野についておこなうが、法的思考において関連するので、休まずに出席することが、理解の助けとなる。

週	授 業 の 内 容
1	登録確認および導入：法現象
2	六法の使い方、社会規範としての法
3	法の分類、出生と法（権利能力）
4	法律行為能力、成年
5	婚姻の成立
6	婚姻の効果と離婚
7	親子関係
8	相続関係
9	契約の仕組み
10	消費者問題
11	不法行為
12	犯罪と刑罰
13	生命の終焉と法制定
14	裁判と法強制
15	法と共に生きる（まとめ）
16	16. 期末試験

【履修上の注意事項】

テキストを一読し、六法を持参して出席し、講義に集中すること。質問大歓迎。講義の聞きっぱなしでなく、テキスト再読・ノート整理など、自学すること。

【評価方法】

期末試験（論述式および穴埋め式）で評価する。出席を考慮する（1割程度）。

【テキスト】

講義にはテキストおよび六法（法令集）の2冊を必携のこと。開講時に紹介する。

【参考文献】

竜崎喜助『生の法律学』（尚学社）

ボランティア論

担当教員 島村 枝美

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

地域福祉の時代となった今、住民の社会福祉への参加は不可欠であるが、そのような時代の到来を視野に、ボランティアやボランティア活動についての理解を深めるために、ボランティアの理念・思想、日本（沖縄）における現状や課題、動向、今後のあり方について学ぶ。

また、ボランティア活動の現状と課題について学生自身が調査研究し、口頭発表を通して学生同志が学びを深める。

【授業の展開計画】

- 1 週目 オリエンテーション（講義概要、講義日程の紹介）
- 2 週目 ボランティアについて考える
- 3 週目 ボランティア（活動）の現状と課題
- 4 週目 ボランティアコーディネーターとボランティアセンター
- 5 週目 ボランティア政策の動向
- 6 週目 ボランティア活動の実際（1）
- 7 週目 ボランティア活動の実際（2）
- 8 週目 私の町のボランティア活動（学生による調査と報告）
- 9 週目 大学生とボランティア活動
- 10 週目 福祉教育とボランティア活動
- 11 週目 生涯学習とボランティア活動
- 12 週目 企業等の社会貢献とボランティア活動
- 13 週目 シルバー（高齢者）とボランティア活動
- 14 週目 地域福祉の主体形成とボランティア活動
- 15 週目 試験
- 16 週目 まとめ

【履修上の注意事項】

学生には、ボランティアセンターやボランティアセンターを訪問し、聞き取り調査や体験を通してレポートを作成し、報告する等主体的に授業に参加して欲しい。

【評価方法】

成績評価は出席状況、授業態度、レポート、発表、試験等の総合評価によって行う。
評価内訳は、試験60%、レポート作成・発表で20%、出席・授業態度が20%である。

【テキスト】

指定なし。適宜レジュメを配布する。

【参考文献】

ボランティアの理論と実際 大阪ボランティア協会 中央法規 他

NPO・NGO入門

担当教員 具志 真孝

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 後期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

関連資格

備考

【授業のねらい】

社会の変化が著しく、地域住民の生活が多様化・複雑化していく中で、公共サービスの中心的な担い手であった行政にも限界が生じてきており、新たに公共サービスの担い手としてNPOが注目されてきた。この入門講座では、NPOに関する基礎的な知識・技能の修得をめざすとともに、NPOが学生の就職選択肢の一つとしての学習の機会になることを期待したい。

【授業の展開計画】

- 1週目：「NPOとは何か ～市民参加と社会的役割～」
 - 2週目：「NPO法人とは何か ～経済・社会情勢との関わりを通して～」
 - 3週目：「那覇市におけるNPO活動支援の取り組み」
 - 4週目：「オーストラリアの事例紹介（1）」
 - 5週目：「オーストラリアの事例紹介（2）」
 - 6週目：「地域通貨とコミュニティ～世界の事例を通して考える～」
 - 7週目：「NPO（市民団体）の活動紹介」
 - 8週目：「ワークショップ ～NPOをつくろう、リエンテーション～」
 - 9週目：「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
 - 10週目：「ワークショップ ～NPOをつくろう、理念づくり～」
 - 11週目：「ワークショップ ～NPOをつくろう、現状把握～」
 - 12週目：「ワークショップ ～NPOをつくろう、現状把握～」
 - 13週目：「ワークショップ」～NPOをつくろう、未来デザイン～」
 - 14週目：「ワークショップ」～NPOをつくろう、方針・方策～」
 - 15週目：「ワークショップ」～NPOをつくろう、方針・方策～」
- まとめ ～振り返り～

【履修上の注意事項】

できるだけNPOに関心のある学生の授業参加を求める。

【評価方法】

授業の出席日数、レポート、ワークショップでの討議状況などを勘案して、総合的に評価する。具体的には、主としてレポートを精査して、入門講座としての基礎的な知識の習得を基準とした評価をしたい。

【テキスト】

特に指定はない。適宜レジユメを配布する。

【参考文献】

- ・「NPO基礎講座」～市民社会の創造のために～ 山岡義典編著 ぎょうせい
- ・「にいがたまちづくり事典 マチダス」企画・編集・発行 財団法人ニューにいがた振興機構 制作（株）博進堂

NPO・NGO入門

担当教員 石原 絹子

配当年次 1年

単位区分 選択

関連資格

備考

開講時期 前期

授業形態 一般講義

単位数 2.0

【授業のねらい】

- ①沖縄のNPOの事例を知り、市民が主体的に活動することの社会的な意義について学ぶ（考察する）。
 ②「アメリカのNPO」の事例、「日本のNPO」との違いや共通点などを知り、NPOの概念を学ぶ（考察する）
 ③日本のNPO法制定、NPOの動向・現状などを知り、なぜ、NPOが日本に導入されるようになったか。社会背景を学ぶ（考察する）。④受講生が、疑問に思っていること、もっと知りたいことなどをワークショップ手法で学び合う（気づく）。

【授業の展開計画】

- 1週目：オリエンテーション。
 NPOとNGO、NPOとボランティア、NPOとNPO法人などの言葉の定義。
 2週目：NPOとコミュニティ団体（青年会、婦人会、こども会、老人クラブ）の関連。
 3週目：那覇市NPO活動支援取り組み、沖縄県NPO活動支援の取り組み（政策）の現状。
 4週目：沖縄県内のNPOの事例（福祉、まちづくり、環境などの活動分野から）
 5週目：沖縄県内のNPOの事例（福祉、まちづくり、環境などの活動分野から）
 6週目：沖縄県内のNPOの事例（福祉、まちづくり、環境などの活動分野から）
 7週目：1週目から6週目までをふりかえり、受講生が、疑問に思っていること、もっと知りたいことなどをワークショップ手法で学び合う。
 8週目：アメリカのNPO事例（教会のNPO活動、大学・企業・NPOとのネットワーク活動などの事例）
 9週目：アメリカのNPO制度、社会背景。
 10週目：日本の社会背景とアメリカの社会背景の違い。
 11週目：日本のNPO法制定、NPOの動向・現状などを知り、なぜ、NPOが日本に導入されるようになったか、社会背景を理解する。
 12週目：NPOとは何か。NPO概念。
 13週目：NPO・企業・行政⇒ 各分野の性格。NPO・企業・行政⇒ 各分野の連携（協働）。
 14週目：8週目から13週目までをふり返り、受講生が、疑問に思っていること、もっと知りたいことなどをワークショップ手法で確認する。
 15週目：感想・試験。

【履修上の注意事項】

NPOを知りたいとおもっている学生

準備事項 ワークショップのための模造紙（30枚）、水性マーカー（6セット）、5センチ正方の付箋（1箱）

【評価方法】

授業の出席日数、レポート、発表を総合的に評価する。

【テキスト】

テキスト購入はない。講師でレジюме・資料を準備する。

【参考文献】

「NPO基礎講座」山岡義典編著 ぎょうせい / 「NPO法人ハンドブック」NPO法人シズ / 「アメリカのNPO視察レポート」石原絹子著 / 「開かれた新しいコミュニティづくり」清水義晴著 えにし屋 / NPOの情報誌、パンフレットなど